

2022年9月1日

9月会長定例記者会見

発表項目① 防災呼びかけの新たなサービスについて

(前田会長)今日は防災の日です。防災に関する新たな取り組みについてご説明します。NHKは経営計画に地域の情報発信強化や日本の放送メディア業界への貢献を掲げています。コンテンツやデータをオープン化して広く使っていただけるようにすることを目指しています。その一環として今回、大雨の際にアナウンサーが警戒や避難を促す呼びかけの音声をオープン化します。今回の音声は、災害時のアナウンサーの呼びかけをNHKが開発した AI に学習させて作成しました。地域の防災に関わる自治体などの担当者は、大雨による災害が想定される際に命を守るための情報をどう伝えるのか常に模索していると聞いています。今回公開する音声を大雨の際に直接活用する他、マニュアル作成などに参考にして頂くことで、地域の防災力の向上に貢献したいと考えています。具体的な内容について担当者から説明します。

(担当者)今回使っている AI 音声は長年、防災減災報道に取り組んできたNHKのアナウンサーたちが、いわば先生役、お手本となって作成しています。文脈に合わせた自然なアクセントや間の取り方など、NHKのアナウンサーが情報をわかりやすく確実に伝える読みの技術を、独自の AI 自動音声合成システムを用いて、コンピューターに学習させて合成しました。こうした取り組みを進める背景は、自治体や企業などの防災担当の方から、NHKの呼びかけを教えてほしいという声が複数寄せられているということがあります。こうしたデータを公開することで、今後は活用する対象や方法など、さまざまなアイデアが生まれることにも期待しております。今後もニーズを踏まえながら改良を重ねていきたいと考えています。

Q.肉声の方が伝わるのでは？

A.(担当者)肉声の方が伝わるということはもちろんそのとおりです。ただそれができない場面というものもあると思います。我々も作成過程でさまざまな地域住民の皆さんと対話する中で、やはり地域の身近な人が身近な大切な人に声をかけるというのは最も効果的だということに気付きました。この AI 音声、非常にスタンダードな読みをしていま

すので、これをそのまま使うのもありですし、これを参考に地域ごとにアレンジして頂くということもしやすいかと考えています。AI も抑揚や間の取り方などはこの技術の中に組み込んでいますので参考になりますし、サイトには、アナウンサーのサンプル動画も掲載していますので、そちらも参考に、ぜひ地域の皆さんでアレンジして使っていただければと考えています。

発表項目② 第49回 日本賞について

(会長)日本賞は、教育コンテンツを対象とした、世界でも類を見ない国際コンクールです。1965年の設立以来、未来を担う子どもたちのために教育メディアの発展、そして世界のクリエイターの才能発掘と育成に力を注いできました。コロナ禍によって世界中で教育コンテンツの重要性が見直されています。特に学校が休校に追い込まれた国や地域では、教育コンテンツが子どもたちの学びを支え、絆を育むのに重要な役割を果たしてきました。しかしソーシャルメディアなどを通じて日々膨大な量の映像コンテンツが生み出される中で、良質なコンテンツを見分けるのが難しい時代となっています。そうした中で、教育に関心のある人が集い、最高品質のコンテンツを紹介する日本賞には、ますます大きな価値と可能性があると考えています。今年の開催概要を担当者から説明します。

(担当者)今年の日本賞には、コンテンツ部門 5 部門と企画部門、合わせて6つの部門に世界57の国と地域から353の作品が集まりました。1次審査を経て、51本の作品がファイナリストに選ばれています。今年は3年ぶりに世界12か国の本審査員の皆様を東京へお招きして、対面で最終審査を行い、各部門の優秀賞とグランプリ日本賞を決めます。また11月1日から4日を日本賞映像祭と位置づけ、日本賞作品の上映会を行うほか、教育の分野で活躍するクリエイターや本審査員の皆さんにもご登壇を頂いてトークセッションを行う予定です。昨年に引き続き、リアルイベントだけではなく、日本賞の特設サイトでオンラインの生配信、さらには見逃し配信という方法でも日本賞を楽しんでいただけるように設計しています。時差などの都合でリアルタイムにご覧いただけない海外の方々にも日英同時通訳をつけて日本賞のコンテンツに触れていただきたいと考えています。また特設サイトでは全てのファイナリスト作品もご覧いただくことができます。さらに、今年は「みんなのうた」でもおなじみのNHKのSDGsテーマソング「ツバメ」の英語版を日本賞の応援ソングとして採用します。人気音楽ユニット

「YOASOBI」が制作し、5人の子どもユニット「ミドリーズ」と一緒に歌う、その名も「ツバメ～ワールドバージョン」を日本賞の会場で初披露します。日本賞は多様な教育コンテンツを通じて、世界の教育の課題や最新の取り組みを伝えてきました。今回も世界の制作者や子どもたちが繋がり、共に教育の未来について考える場となることを目指します。なお今年度の受賞作品は、来年春ごろ日本語にして放送する予定です。今後の詳しい予定は日本賞の公式ホームページで発表します。

Q.先月 25 日に俳優の香川照之さんの性加害報道があった。NHKでは香川さんが出演する「昆虫すごいぜ！」が放送されている。レギュラーを持つ出演者にこうした報道があったことについて、会長の受け止めは。

A.(会長)報道を私も承知していて、あってはならないことだと考えています。香川さんの番組の放送予定など、細かいことについては陪席から説明をさせていただきます。

A.(担当者)総合テレビで放送している「昆虫すごい Z！」と E テレで放送している「昆虫すごいぜ！」については現時点で放送が決まっているものはありません。既にこれまでの放送も終わっていて、今のところ再放送の予定もありません。

Q.8 月 25 日の時点で、放送予定の変更について「現時点でそうした対応を取る予定はありません」と発表しているが、降板という扱いになるのか。

A.(担当者)週刊誌の報道が出た後に出したコメントは、降板、出演取りやめについて、現時点でそのような対応をとる予定はありませんとお答えしました。今日は「昆虫すごい Z！」と「昆虫すごいぜ！」について、現時点で放送が決まっているものはありませんとお答えさせていただきました。

Q.香川さんがプロデューサーという立場で関わっている「インセクトランド」の次回 9 月 5 日の放送予定は変更ないのか。

A.(担当者)さまざまな報道がなされているということは承知していますので、事実関係を確認して適切な対応をしていきたいと考えています。

Q.香川さんは「龍馬伝」など過去にNHKのドラマにも多数出演しているが、オンデマンドなどについて配信を止めるなどの対応はあるか。

A.(担当者)現時点でどのような対応を取るか決まっているものはあ

りません。今後適切な対応を検討してまいります。

Q.「昆虫すごいぜ！」のシリーズはNHKオンデマンドで配信しているのか。NHKプラスでは配信されているのか。

A.(担当者)NHKオンデマンドについては「昆虫すごい Z！」と「昆虫すごいぜ！」は配信していません。NHKプラスも現在両番組は配信していません。

Q.最初から配信していなかったのか。

A.(担当者)NHKプラスは、配信の期間が過ぎています。

Q.NHKオンデマンドは。

A.(担当者)今手元に情報がありませんが、必要があれば確認してお伝えします。

Q.過去の「昆虫すごいぜ！」がNHK for School で見られる状態になっているが、今後どのような扱いになるのか。

A.(担当者)現時点で対応を決めているものはありません。今後適切に対応してまいります。

Q.NHKのホームページにある「週刊みなさまの声」で8月22日から28日の1週間に「昆虫すごい Z！」の関連で421件、この週でトップの問い合わせ件数があったと記載があった。これは大半が香川さんの出演の是非についての問い合わせか。

A.(担当者)細かい内訳は控えますが、香川さんのものも含まれています。番組の休止を求めるご意見もありますし、逆に今後も番組に出演してほしいというご意見もありました。

Q.今、香川さんが出ているコンテンツはどのぐらい展開しているのか。

A.(担当者)声優としてご出演されているEテレのアニメ番組「インセクトランド」があります。過去には、多くの番組にご出演して頂いていますので、今すぐお答えするのは難しいです。「昆虫すごい Z！」や、最近では「昆虫すごいぜ！」にご出演いただいています。NHK for Schoolのネットのコンテンツという形で配信をしています。また渋谷の展示施設「NHKプラスクロス SHIBUYA」で現在「NHK for School 展」を開催していて、その中に一部、香川さんが扮するカマキリが現れるコンテンツがあります。こうしたイベントスペースのコンテンツについても、今後適切に対応してまいります。

Q.何を材料として判断するのか。

A.(担当者)ご本人や事務所の今後の対応、視聴者の皆様からの反応、社会の受け止めなど、総合的に参考にしながら判断していきます。

Q.本人や事務所サイドから現時点でNHKに接触はあるのか。

A.(担当者)香川さんの事務所とはやり取りを続けています。個別のやり取りについては、差し控えさせていただきます。なお、先ほどのNODに「昆虫すごいZ!」と「昆虫すごいぜ!」に過去に配信があったかという質問ですが、配信したことはないということでした。ただ、「昆虫すごいぜ!」のレギュラー番組の特別編という形で、2019年8月1日に「NHKスペシャル 昆虫やばいぜ!」という番組を放送しました。それについてはNODに現在も配信中です。それ以外も多数、香川さんがご出演されている番組がNODには配信されています。

Q.「昆虫すごいZ!」は今年の春の番組改編で、家族でぜひ週末の夕方にテレビを囲んで見てほしいという強い願いを込めて編成したと当時の正籬放送総局長の会見等でも説明があった。NHKとしても力を入れていたと思うが、結果としてこのような形になったことについて、会長はどのように感じているか。

A.(会長)番組そのものは良い番組だと思います。ただ報道されていることとの関係を考えますと、番組は良いからと言って、何をやってもいいということにはならないわけですから、社会的な問題を起こすということは、あまりいいことではないですね。ですからそれは切り離して考える必要があると考えています。

Q.そうすると、今後また同じような形で放送することは考えにくいのか。

A.(会長)適切な対応をすると申し上げているとおりです。

Q.放送中の朝ドラ「ちむどんどん」について。

A.(会長)私も毎回観ていますが、さまざまなご意見をいただいています。ドラマですので、色々なご意見があると思います。厳しいご意見もありますし、ストーリーがおかしいとか、この筋を変えた方がよいとか、色々なご意見もありますが、ドラマということでご理解いただきたいと思います。色々なご意見をいただきながらこういうドラマは成長していくので。あと1か月ぐらい続くので、最後まで楽しんでいただければと思っています。

Q.今年のNHK紅白歌合戦の放送予定、開催予定などについて。

A.(会長)予定どおりです。

Q.一部報道で会長がNHK紅白歌合戦をやめてもいいのではないかとやっているというような報道もあったが、そういう事はないのか。

A.(会長)誤報です。そんなことを言ったことはありません。

Q.例えば歌合戦形式をやめるとか、放送形態などの細かい内容につ

いてはいつごろ発表する予定か？

A.(会長)決まり次第、発表したいと思います。NHKホールの改修が終わり、またNHKホールでやりますので、やり方を含めて決定次第ご報告させていただきます。

Q.総務省「デジタル時代の放送制度の在り方検討会」の取りまとめが公表され、民放との協力体制についても言及があったが、NHKとして二元体制を維持しながらこういった役割が果たせると考えるか。

A.(会長)NHKと民間放送の二元体制は、私は非常に重要だと思いますし、連携をすることも必要だと思います。その中で、地域の放送ネットワークの維持や管理コスト、保守管理など色々な問題があります。NHKは全国あまねく放送するという義務がありますので、単純にNHKが民放の代わりにやるというのではなく、まさに共存共栄になるような形で協力できればと私は思っています。

Q.この提言では、小規模中継局やミニサテライト局などの共通的成本をNHKが受信料で負担するスキームも検討するという内容も盛り込まれているが、こうした受信料の使い方についてどう考えるか。

A.(会長)ご指摘のようにNHKは受信料で成り立っていますので、その使い道については、視聴者に納得していただける形で協力させていただくということです。ですから、一方的に代わりにやるということにはならないと思いますが、共存共栄になるようなんとかやっていきたいと思っています。そのためにいろいろな工夫が必要だと思います。

Q.受信料の値下げについて、秋には方向性を示したいとのことだったが、現時点の検討状況は。

A.(会長)検討しています。秋にはもうちょっと早いので、秋になったらしっかりと説明させていただきます。

Q もう少し時間がかかるということか。

A.(会長)コロナがやっぱりかなり影響していて、想定どおりに全て順調にいつているわけではありません。値下げに関しては恒久的に値下げをしたいと思っていますが、本当に恒久的にできるか、コスト面がそこまで下がるのかを見なければいけませんので、そこを含めてしっかり検討する必要があります。

Q.コロナ禍の影響があるということか。

A.(会長)収支をバランスさせるのがNHKの予算の基本です。今我々

がやっているのは、全体をスリム化して強靱にするということです。肥大化させない形で収支をバランスさせて、かつクオリティを落とさないという難しいことに同時にチャレンジしています。今までやったことのないことをやっているのだから、絶対これで大丈夫という確実な自信はありません。ですから、やりながら修正が必要な場合には修正することだと思えます。

Q.衛星付加受信料の1割程度の値下げを実現できるのか。

A.(会長)現時点では何とかそうしたいと思っていますので、その方向で検討することです。

Q.自民党の「放送法の改正に関する小委員会」が、放送の補完となっているインターネット活用業務について本来業務化に向けた検討を進めるべきという提言を出したが、前田会長はどう受け止めたか。

A.(会長)私も、補完業務という位置づけは世界的に見てやっぱりちょっと違うのではないかと。伝え方の手段の問題ですので、こちらが本業だとか、こちらは補完だとかと言うのは、ちょっと便宜的すぎるという感じはします。報道機関ですので、正確な情報をしっかり伝えていますが、伝える伝送手段は視聴者の方が選ばれるので、こちらから決めるわけにはいかないですね。ですから、いろいろな機会を提供する、要するニーズがあるところにちゃんと提供していくというのが普通だと思えます。世界はすでにそうなっていますので、この提言はそのとおりだなと私は思っています。

Q.経営委員会が会長の指名部会を設置した。前田会長ご自身は今期限りと言っているが、指名部会が前田会長の続投とした場合でも、気持ちは変わらないか。

A.(会長)変わりございません。毎月、「あと何か月」と考えながらやっています。

Q.値下げの検討にあたってインフレの影響はあるか。

A.(会長)ちょっと読み切れませんが、明らかに物価が上がっています。放送の場合は電力をけっこう使いますし、放送センターの建て替えでは建設資材など色々なものが上がっているのだから、コストの上昇は考慮せざるをえません。ただ私は、やっぱりスリムで強靱という考え方は堅持したいと思えます。そうしないと持続可能性に関してやや問題が起きますので、そこについてはこだわりたい。恒久的に受信料を下げ

るようなことができるように体制を作りたいのが私どもの本心なので、これで大丈夫かというのを検証せざるをえません。過去に想定した時と比べて、かなり予見が狂ったことは事実ですが、私はそうは言っても、何とか吸収できないかなと思いつつやっていますので、お約束したことは何とか実現したいと思っています。

Q.安倍元首相の国葬について、報道の体制や番組の制作は？

A.(会長)私は基本的に報道機関として事実をしっかりと正しくお伝えすることに尽きると考えております。具体的な内容については、これから検討します。

Q.ネット活用業務に関しては、民業圧迫や肥大化の懸念が指摘されているが、どう考えるか。

A.(会長)NHKでは民業圧迫ホットラインというのを作っています。私が会長になってから作りましたが、ホットラインにお電話いただいたのは1件だけです。その1件も、この電話は本当に通じるのかという確認の電話でした。私は民業圧迫とかそういう事実はないとは思っています。

Q.肥大化を懸念する声があるが、どう考えるか。

A.(会長)今の中期経営計画をご覧いただければ、肥大化をさせないということを約束しています。肥大化の懸念はどこにあるのでしょうか。

Q.第1四半期の業務報告で衛星契約数の減少が目立つが、原因についてどう考えているか。

A.(会長)衛星契約は6月末で、年間目標4万件に対して、実績マイナス3万件です。まだ年度途中ですので、一生懸命頑張るとしか言いようがありません。

Q.紅白歌合戦について、中森明菜さんに出演交渉はしたのか。

A.(担当者)紅白についてはまだ何も決まっておられません。この段階で個別のアーティストの方について発言することはありませんので、ご理解いただければと思います。

(以上)